

発行

みなとしみず

国土交通省中部地方整備局
清水港湾事務所
 御前崎港事務所/下田港事務所/田子の浦港事務所
 静岡市清水区日の出町7番2号
 TEL. 054-352-4146(代表)
<http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp>

～お知らせ～

- ・海フェスタしずおか 2019年7月13日(土)～8月4日(日)
 - 7月13日(土)～8月4日(日)海の総合展 場所:清水マリニビル1階多目的ホール
 - 7月27日(土)～7月28日(日)清龍丸一般公開 場所:清水港日の出埠頭
- ・第19回 踊夏祭 2019年7月14日(日) 場所:大井川港特設会場
- ・第72回 清水みなと祭り 2019年8月2日(金)～8月4日(日) 場所:さつき通り、清水港日の出埠頭他
- ・御前崎みなと夏祭2019 2019年8月3日(土) 場所:マリニパーク御前崎



清水港・熱海港が「釣り文化振興促進モデル港」に指定されました

国土交通省は、地方創生を目的として釣り文化の振興促進に貢献している港湾を対象に、「釣り文化振興促進モデル港」(以下「モデル港」)として、平成31年3月29日(金)に全国13の港を指定しました。なかでも、中部地方整備局管内における初の「モデル港」として、「清水港」と「熱海港」の2港を指定したところです。



＜釣り開放日に日の出埠頭で釣りを楽しむ様子＞

「モデル港」に指定された港湾については、運営母体となる地元関係者からなる協議会等に対し、国土交通省から効率的な運営に関する技術的な支援や、同省のHP等で取組みを全国に発信・紹介しつつ、公益財団法人日本釣振興会等と連携し、安全対策や釣り場のマナー教育等における支援を実施することとしています。

この指定に基づき、4月17日(水)に熱海港、5月26日(日)に清水港において、それぞれ指定証の交付式が実施されました。

熱海港では、「和田磯防波堤」を魚釣り施設として開放し、釣り教室や「熱海おさかなフェスティバル」を開催するなど、地域貢献および誘致対策の活動をしています。交付式当日は、熱海港海釣り施設連絡協議会の中心メンバーであるNPO法人SEA WEB 安田和彦理事長も同席するなか、齊藤栄熱海市長に対し、田中知足港湾空港部長から指定証が交付されました。

清水港においては、普段は保安上、立入禁止となっている日の出埠頭岸壁を定期的に釣り場として開放しており、今年度より清水港フィッシングエリア振興協議会メンバーを中心に、釣り体験教室やライフジャケットの無料貸出し、釣り場の清掃活動などを実施しています。交付式当日は、田辺信宏静岡市長に対し、国土交通省港湾局の下司弘之港湾局長から指定証が交付されました。また、清水港では新興津地区にて「清水港海づり公園」の整備が進められており、多くの釣り愛好家がオープンを心待ちにしています。



＜熱海港 指定証交付の様子＞



＜清水港 指定証交付の様子＞

御前崎港・榛原港・大井川港関係者との意見交換を開催

4月13日（土）に御前崎港、榛原港および大井川港において、地元関係者との意見交換会を開催しました。

各意見交換会には、井林辰憲衆議院議員にご出席いただくとともに、国土交通省から下司港湾局長、田中中部地方整備局港湾空港部長らが参加しました。

御前崎港での意見交換会は、御前崎市にある御前崎市観光物産会館「なぶら館」にて開催され、柳澤重夫御前崎市長をはじめ、官民の地元関係者にご出席いただき、御前崎港に関する物流や賑わい、施設整備や利用振興に関する意見や要望を伺いました。

具体的には、今年度から国において工事着手する予定の西埠頭の波除堤撤去やマリンパークの環境整備に向けた支援、魚食と連携した賑わいづくり、ポートセールスなどに関する貴重な意見や要望をいただきました。

榛原港での意見交換会は、牧之原市にある静波海水浴場にて開催され、杉本基久雄牧之原市長をはじめ、相良地区、榛原地区の区長など約50名の住民にご出席いただき、榛原港の防潮堤整備予定箇所を見ながら、榛原港や相良港の海岸整備に関する意見や要望を伺いました。

具体的には、現在、静岡県が整備を進めている榛原港、相良港両港の防潮堤整備への支援に関する要望などをいただきました。

大井川港での意見交換会は、焼津市にある大井川港湾会館にて開催され、中野弘道焼津市長をはじめ、官民の地元関係者にご出席いただき、大井川港に関する防災や物流、賑わいに関する意見や要望を伺いました。

具体的には、現在、焼津市が整備を進めている胸壁整備への支援、クルーズ船誘致やみなとオアシスを活用したおもてなし拠点づくり、油の流出への対応などの防災対策など、多方面にわたる意見や要望をいただきました。

当事務所では、今回いただいた貴重な意見や要望を踏まえながら、快適かつ安全で、人々に親しまれる港づくりに全力で取り組んでまいります。



＜御前崎港に関する意見交換会の様子＞



＜榛原港に関する意見交換会の様子＞



＜大井川港に関する意見交換会の様子＞

清水港 日の出埠頭改良工事を名古屋大学生が現場見学

清水港 日の出埠頭では、平成29年度に改良工事が完了した新2号岸壁（現在の4,5号岸壁）に引き続き、新1号岸壁（現在の1～3号岸壁）の老朽化対策及び、大型クルーズ船（15万トン級）2隻同時着岸を可能とするための改良工事が進められています。

2,3号岸壁で行われている工事は、既設栈橋の鋼管杭同士を、鋼鉄製の「梁（はり）」（鋼製補強深梁）で繋いで補強をする「深梁工法」という技術が使われています。深梁工法の施工は、工場で製作した深梁を陸上クレーンで海中に沈め、鋼管杭間に設置するため、改良工事で一般的に行われる既設栈橋を撤去する必要がなく、施工性、経済性に優れているといった特徴があります。

4月19日（金）には、名古屋大学の学生38名が清水港を訪れ、改良工事の現場を見学しました。学生の皆さんには現場見学を通して、港湾行政の必要性や清水港が中部圏の経済を支える重要な港であることを学んでいただくことができました。



<岸壁改良工事現場を見学>

清水港 初！大型客船3隻同時寄港&見学会を開催しました！

4月26日（金）、大型客船3隻が清水港に寄港しました。当日午前には、清水港初寄港となる「アザマラ・クエスト（3万277ト）」と、「セブンシーズ・マリナー（4万8075ト）」が日の出埠頭に、午後には「ノルウェー جان・ジュエル（9万3502ト）」が興津第2埠頭にそれぞれ着岸しました。外国の大型船3隻が同時着岸するのは清水港初となり、周辺は乗船客などで賑わいました。

また、同日、清水港湾事務所では、興津第2埠頭に着岸したクルーズ船「ノルウェー ジュエル」の見学会を開催しました。あいにくの空模様でしたが、31名の方にご参加いただき、普段は立ち入ることができない岸壁上から、間近での客船見学を楽しんでいただきました。



<3隻同時着岸の様子(日の出埠頭より)>



<アザマラ・クエスト>



<セブンシーズ・マリナー>



<ノルウェー ジュエル 見学会の様子>

清水港フラワーフェスタ2019に出展しました

5月19日（日）、清水マリナーパークにて『清水港フラワーフェスタ2019』が開催されました。

このイベントは、ウォーターフロントの賑わいづくりの一環として、毎年5月に行われている「市民参加型」のフラワーショーです。会場では、フラワー教室やワークショップなど、花と触れ合うことができ、当日は約1万2000人が清水港を訪れました。

当事務所は、港の紹介ブースを出展し、防波堤模型による実験や、中部地方整備局港湾空港部管内“みなとオアシス”の紹介パネルの展示、パンフレットの配布などを行いました。

防波堤模型による実験では、「すごい！防波堤があるとこんなに違うんだ！」「目で見ると、防波堤があるときと、ないときの違いがよく分かる。」といった声があがり、防波堤が担う役割や必要性を体感していただくことができました。今回の出展では、普段は港に来ることや知る機会が少ない方にも、港を身近に感じていただく良い機会となりました。



<花で彩られた会場>



<みなとオアシスを紹介>



<防波堤模型を使って実験>

第80回 黒船祭が開催されました

5月17日（金）～19日（日）に、下田市で「黒船祭」が開催されました。「黒船祭」は、日米和親条約による下田港開港を記念して、1934年（昭和9年）に第1回が開催され、今年で80回を迎える歴史ある祭事です。期間中には、下田市街地・下田港・周辺寺院などを会場に、様々な催しが行われ、下田港には、米海軍ミサイル駆逐艦「ステザム」と海上自衛隊掃海艦「ひらど」が入港しました。

初日は、元野一生中部地方整備局副局長を含む日米の来賓による歓迎交流会が、下田東急ホテルのガーデン芝生庭園で行われました。夜には、海上から華やかな花火が打ち上げられ、来場者を魅了しました。

2日目は、メイン行事の記念式典と公式パレードが行われました。記念式典では、元野副局長を含む日米27人の代表が開国記念碑に花輪をささげ、式典後のパレードでは、海上自衛隊やアメリカ海軍が規律正しい行進を披露しました。また、商店街では大道芸や縁日など様々なイベントが行われ、多くの人で賑わっていました。

最終日には、日米親善綱引き大会にて、日米が対決しました。10チームのリーグ戦を勝ち抜いた米海軍チームと、海上自衛隊掃海艦「ひらど」チームによる決勝では、圧倒的なパワーにより熱戦を制した、米海軍チームの勝利となりました。

令和初となる今年の「黒船祭」は、晴天にも恵まれ、日米の交流が深まった3日間でした。



<日米歓迎交流会（下田東急ホテル）>



<公式パレードの様子>



多彩で豊かな地域資源や素晴らしい市域の魅力を全国に発信するべく、7月13日(土)～8月4日(日)まで『海フェスタしずおか』が開催されます。海フェスタとは、「海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う日」という「海の日」本来の意義を再認識する機会として、毎年、海にゆかりのある自治体で開催されるイベントです。清水港湾事務所からも、『海の総合展』への出展、『清龍丸一般公開』を行います。

🐟 海の総合展 🐟

海の総合展は、「海のことをわかりやすく、楽しみながら学べる」をテーマに、海や港に関係する団体が、パネル・模型の展示や、清水港の「過去・現在・未来」がわかるセミナー等を行います。海の恩恵に感謝するとともに、港を中心とした地域活性化を目指す内容となっており、清水港湾事務所では港湾の整備に関する体験・展示ブースを出展します。

- 日程：令和元年7月13日(土)～8月4日(日)
- 会場：清水マリビル 1階多目的ホール
(静岡県静岡市清水区日の出町9-25)
- 内容：模型を使った防波堤の効果実験、岸壁・”実物大”の係船柱の模型展示、ミニ消波ブロック製作体験(※)など

7月20日(土)、21日(日)限定
消波ブロックのキャンドルづくり体験



※体験料無料

※当日受付。定員になり次第、終了とさせていただきます。

※7月20日(土)、21日(日)のみ消波ブロックのキャンドルづくり体験(無料)を開催予定



模型を使った防波堤の効果実験



岸壁・”実物大”の係船柱の模型



ミニ消波ブロック製作体験

🚢 清龍丸一般公開 🚢

7月27日(土)～28日(日)の2日間、清水港の日の出埠頭で「清龍丸」の船内を一般公開します。本船は、国土交通省中部地方整備局の作業船で、通常は名古屋港で航路などの浚渫(しゅんせつ：海底を掘って深くする作業)を行いますが、海上で大規模な油流出事故が発生したときは、速やかに流出現場へ向かい、油回収作業を行います。また、災害時には、早期復旧を図る役割も担い、平成28年の熊本地震や平成30年の西日本豪雨の際は、支援物資の運搬や被災地での入浴支援などで活躍しました。

一般公開当日には、本船の乗組員やスタッフが船内を案内します。日本で3隻しかない大型油回収器を装備した作業船を見学し、ぜひお越しください。

- 日時：令和元年7月27日(土)～28日(日)の2日間
10時～15時まで(事前予約不要)
- 場所：清水港日の出埠頭
- 内容：浚渫兼油回収船「清龍丸」の船内一般公開
(7/27(土)は海上保安庁の巡視船「いず」も同時公開されます)
- 料金：無料



シリーズ「富士川水運」⑤（全8回）

富士川の開削により、甲州の年貢米「甲州廻米」は、甲州三河岸より清水港を經由して江戸というルートが確立されました。今回は、甲州三河岸よりの年貢米が陸揚げされた、「岩淵河岸」を取り上げます。

戦国時代の富士川下流の流れは、現在より東側の富士市中心部寄りに本流があり、現在の流れは、支流であったようです。その後、台風等により川瀬が変位し、江戸時代初頭には、本流と支流が入れ替わった為、



岩淵河岸跡（富士川橋上流側：富士市）

東海道の早期整備を目指す幕府は、岩淵村に、富士川渡船役を課す事にします。また、同時期に、岩淵河岸より下流での出船を禁止します。これにより、東海道を通行する人や荷物は、岩淵河岸より下流で、富士川を渡る事が出来なく成りました。これは、甲州廻米川下げ時にも厳密に守られ、岩淵河岸の繁栄にも繋がって行きます。

寛永二年（1625年）、徳川家光の弟忠長が、甲斐・駿河・遠江三国の領主になる頃から、甲州廻米の川下げが増えはじめ、享保の改革により甲府が幕府直轄地になる享保九年（1724年）以降は、舟運による廻米の量は年間六万俵を越える量になりました。この頃には、周辺地域からも多数の新河岸設置の申請や出入（訴訟）が出される様

になりましたが、その都度、岩淵村から代官所には、東海道設立以来の「渡船役」としての岩淵の重要性和、岩淵村渡船場より下流への船出を厳禁とした幕府の通達などを記した歎願書等で新規参入を防ぎました。元文五年（1740年）にも直接、廻米を積んだ船を蒲原浜へ乗入れる事を禁止する歎願書が甲府代官宛に出されています。

宝暦二年（1752年）に「五貫島」より新規河岸場の申請が代官所に出されますが、この時提示された内容は、以降の廻米輸送に関して岩淵村に新たな負担を生じる結果となりました。「五貫島」よりの提案は、幕府より岩淵村が毎年受け取っている「渡船事業整備の富士川の定渡船（渡し舟）3艘の新造費用」を自分たちが負担するので、新たな河岸を認めて欲しいというものでした。岩淵側も、対抗策として、代官所に同様の負担を受け入れる旨を伝えました。幕府側からは、新設の河岸が岩淵河岸より下流になる為、是を理由に五貫島の新河岸を許可されませんでした。費用面では、従来通り新造船3艘分（27両）は現状通りに渡す代わりに、廻米の無賃附送り負担を受けれる結果となりました。これは、当時の岩淵―蒲原浜陸送分に換算して10～15%の輸送分の負担となりました。

年貢米の輸送は、10月末から翌年5月頃まで行われており、陸送に当たっては、農耕牛馬の徴発令命令が代官の手代より出され、周辺村々に牛馬が割り当てられました。冬の農閑期は主要な収入源になりましたが、豊作の年や冬場の悪天候などで輸送が長引き、田畑を耕す春を迎えると、牛馬の確保が難しくなり、費用負担が増大する為、甲府代官から助成金が支給される場合もありました。記録に残っている文化八年（1811年）の陸送請負金は、2両13分余りが村の欠損となったようです。

岩淵河岸は、その後も、東海道を参勤交代で行き来する大名行列の渡船や、時には朝鮮通信使の通過の際には、舟を繋いで舟橋を掛けるなどの渡船役の業務を続け、廻米を始めとする甲州からの木材、炭、煙草などの産物の川下げ品と、清水湊から運ばれた「瀬戸内塩」を主力とした川上げ品が、上下に行きかう富士川水運の要所としての役割を果たしました。

※このシリーズは「富士川水運」について紹介するもので、今回は連載5回目です。

山口 博史(やまぐちひろふみ)昭和43年 静岡市清水区生まれ。フォトグラファー、テレビ撮影技術スタッフ。

海とみなとの相談窓口



全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれみなと

0120-497-370

受付時間：9時30分～12時、13時～17時（土・日、祝祭日は除く）

☆携帯電話・PHSからもご利用できます☆

- ・海やみなとの利用に関する事
- ・総合的な学習時間に関する事
- ・みなとの構想や計画に関する事
- ・海洋土木技術に関する事
- ・みなとの防災に関する事

その他、海とみなとに関する事は何でもお問い合わせください

■本紙に関するお問い合わせ先■

清水港湾事務所 企画調整課

木全・富田 TEL 054-352-4148

ご意見ご感想をお寄せ下さい。

pa.cbr-shimizukouwan@mlit.go.jp